令和８年10月29日

厚木市長　山口　貴裕　様

厚木市里地里山保全等促進委員会
委員長　古賀　学

第３次厚木市里地里山保全等促進計画の策定について（答申）

令和８年８月20日付けをもって諮問のありました第３次厚木市里地里山保全等促進計画の策定について、慎重に審議した結果、別紙のとおり答申いたします。

第３次厚木市里地里山保全等促進計画の策定について

答　申

厚木市里地里山保全等促進委員会

令和８年 10 月 29 日

答　申

里地里山は、集落を取り巻く農地、水路、ため池、二次林、草地等が一体となった地域であり、それぞれの地域の自然条件の下、人々が農林業や日常生活を営む中で長い年月をかけて形成され、維持されてきた二次的な自然である。本市においても、里地里山は人々の暮らしに根ざした営みにより、多様な環境が育まれてきた。

里地里山は、農林産物の供給だけでなく、生物多様性の保全、景観形成、水源の涵養、防災・減災、地域文化の継承など様々な機能（以下「多面的機能」という。）を有しており、市民の豊かな暮らしを支える重要な地域資源である。

一方で、社会構造や生活様式の変化に伴い、薪炭や落ち葉など里地里山の資源を利用する機会が減少するとともに、農林業従事者の高齢化や担い手不足等により、これまで地域の人々によって支えられてきた里地里山の維持管理を取り巻く環境は変化している。本市においても、遊休農地の増加、森林の管理不足、竹林や雑木等の繁茂、野生鳥獣による農作物等への被害、外来生物の増加による生態系への影響など、里地里山を将来にわたって維持していく上で、様々な課題が生じている。

第３次厚木市里地里山保全等促進計画では、こうした課題を踏まえ、市全体で里地里山の価値を共有し、次世代へ引き継いでいくためのビジョンを示す必要がある。

そのためには、里地里山を単に「残すべき自然」として捉えるのではなく、人々の暮らしや地域の営みと関わりながら形成されてきた背景を踏まえ、守り、育み、活用すべき地域資源として捉えることが重要である。

また、環境学習や自然体験、農林業体験、地域活動等を通じて、幅広い世代が里地里山の魅力や価値を知り、楽しみながら保全に関わる機会を創出し、新たな担い手の確保につなげていくことが望まれる。

こうした取組を積み重ね、従来から保全を担ってきた地域住民や農林業者等に加え、保全活動団体、企業、学校、大学、市民ボランティア等の多様な主体がそれぞれの知識、技術、経験等をいかしながら関わることのできる環境を整え、計画期間である 10 年間を通じて、地域の力と市民の関心が保全活動につながる体制を確立されたい。

本市の豊かな自然環境と市民の郷土愛を大切にしながら、多様な主体が連携して里地里山を保全する取組を進めることで、その多面的な機能を将来にわたって維持・発揮させるとともに、「自然豊かなまち」という本市の魅力をさらに高め、豊かな里地里山を次世代へ継承していくことを切に希望する。

1　全体について

使用する語句や文章表現については、用語の統一等に十分配慮するとともに、専門用語には解説や注釈を加えるなど、より分かりやすい内容とされたい。また、写真やイラスト等を活用するなど、視覚的にも分かりやすく、親しみやすい構成となるよう工夫されたい。

2　里地里山の多面的機能について

里地里山が有する多面的な機能は、適切な人の手による管理によって維持されており、適切な管理が行われない場合には機能が低下し、市民生活に様々な影響を及ぼすことが懸念される。

例えば、森林等の高木化が進行すると、林内に十分な日光が届かなくなり、下草が育ちにくくなることで、降雨時に土壌が流出しやすくなることが考えられる。また、下草や落ち葉等による保水機能が低下することで、土砂災害や洪水等のリスクが高まることも懸念される。

里地里山の多面的な機能により、地域社会や市民生活がどのような恩恵を受けているのか、その価値と保全の必要性について、市民に分かりやすく示されたい。

3　ネイチャーポジティブに係る取組との連携について

里地里山は、生物多様性の維持・回復においても重要な役割を果たしている。里地里山には、水田、ため池、二次林、草地、農用地など、多くの動植物の生息・生育に適した多様な環境が形成されている。

ネイチャーポジティブ宣言をしている本市においては、生物多様性の保全に係る取組と連携を図るとともに、生物調査や生物の保全活動を主な活動とする市民団体を里地里山活動団体として認定できるよう、既存制度の拡充を検討されたい。

4　観光・産業資源としての活用について

里地里山は、自然環境や景観をいかしたエコツーリズムや農業体験などの観光資源となるほか、農産物・林産物のブランド化や地産地消を通じた地域産業の活性化にもつながる可能性を有している。

こうした里地里山の多様な可能性を最大限に生かすため、認定団体への支援を行うとともに、本市の里地里山が有する魅力や価値を市内外に広く発信されたい。

5　担い手育成の環境整備について

里地里山の持続的な保全には、幅広い世代が自然と関わり、継続的に活動できる環境や仕組みを整えることが重要である。こどもへの環境教育に加え、市民が身近な自然に触れ、地域の文化や保全活動について学ぶ機会を充実させるとともに、大学生など若い世代が主体となり活動する場を提供するなど将来の担い手を増やす取組が求められる。

こうした活動を通じて、自然への関心や地域への愛着を育み、地域住民、大学、市民団体、事業者等が連携し、継続的かつ積極的に活動に参加できる体制を整備する必要がある。

6　CSR 活動としての場の提供について

地域貢献や環境保全に取り組む企業にとって、里地里山を活動の場として活用することは非常に有効である。企業が社員による保全活動や環境教育等に参加することで、地域への愛着や理解を深めるとともに、地域と企業が連携した持続可能な保全体制の構築につながることが期待される。